

## 船舶事故調査報告書

平成23年5月12日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）  
委員 山本 哲 也  
委員 石川 敏 行  
委員 根本 美 奈

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	平成22年10月3日 04時20分ごろ
発生場所	北海道小平町臼谷漁港外防波堤北端付近 (概位 北緯44°00.0′ 東経141°39.0′)
事故調査の経過	平成22年11月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等</p> <p>漁船 第十八<sup>じんえい</sup>甚栄丸、8.5トン HK2-20616（漁船登録番号）、個人所有 14.20m (Lr) × 3.68m × 1.28m、FRP ディーゼル機関、389kW、平成4年6月</p>
乗組員等に関する情報	<p>船長 男性 50歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和57年10月13日 免許証交付日 平成19年1月22日 (平成24年12月3日まで有効)</p>
死傷者等	なし
損傷	全損（右舷船首部外板に破口、航海計器及び機関に濡損）
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、臼谷漁港北西方沖約4.2海里に設置されたほたて貝養殖施設において操業を終え、手動操舵により、針路真方位約117°、対地速力約18ノットで同港に向けて航行していた。</p> <p>船長は、操舵室内で立って操船に当たり、肉眼により前方の見張りを行っていたところ、臼谷港西防波堤灯台の明かりを視認したが、港口までの距離がまだあると思い、レーダーにより本船の位置を確認せずに航行を続けた。</p> <p>本船は、平成22年10月3日04時20分ごろ、臼谷漁港の外防波堤北端付近に設置された消波ブロックに衝突した。</p> <p>船長及び甲板員は来援した僚船に救助され、本船は、船体傾斜して転覆したのち、クレーン台船により引き揚げられたが、廃船処理された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1、視界 良好 海象：波高 約0.5m</p>
その他の事項	船長は、ふだん視界不良時はレーダーを活用して慎重に操船していたが、視界良好時はあまりレーダーを活用していなかった。

	<p>臼谷漁港の港口は、西防波堤北端部と北防波堤西端部とによって形成され、北方に向けて開口しており、同港口の北西方約80m沖には、長さ約150mの外防波堤が北東～南西方向に築造されているが、外防波堤北端の北方約130mの海面に標柱が設置されていたものの、外防波堤及び標柱に標識灯等はなかった。</p> <p>船長は、臼谷漁港へ入航する際、標柱を右舷側に見て入航していた。消波ブロックには、本船の塗料が付着していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、臼谷漁港北西方沖を同港に向けて帰航中、外防波堤北端付近に設置された消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、臼谷港西防波堤灯台の灯火を視認した際、港口までの距離がまだあるものと思込み、レーダーにより船位を確認しなかったため、外防波堤北端付近に向けて接近していることに気付かなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、臼谷漁港北西方沖を同港に向けて帰航中、船長が、レーダーにより船位を確認しなかったため、外防波堤北端付近に向けて接近していることに気付かず、外防波堤北端付近に設置された消波ブロックに衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	